



1505-1615グループセッション(セッション2)

## これからの授業アンケートと生活実態調査

■話題提供: 田中岳 (九州大), 岡崎成光 (早稲田大)

Helka Kekäläinen (Vice-President of the ENQA)

# Think-Pair-Share

- このセッションに参加した理由（期待すること）などを、お隣の方と語り合ってみましょう



# orientation (*GRIP*)

## *Role* 役割

- ✓ 豊かな場面づくり: この場にいる皆さん
- ✓ 話題提供: 田中岳, 岡崎成光
- ✓ コメント: Helka Kekäläinen
- ✓ まとめ: 石口純平



# orientation (*GRIP*)

## *Impact* ねらい

- ✓ 大学では、学生の授業の理解度や大学生活全般の満足度を把握するためのさまざまな調査が行われている。今後、学習と生活の質向上には、調査を受けた学生からのフィードバックによる調査方法の改善や調査結果の有効的な活用が重要である。

欧州における経験をふまえて、学生の経験をよりの確に把握し、質向上へ有効に活用するために必要な次のステップについて、議論する。



# orientation (*GRIP*)

## *Goal* 目標

- ✓ 授業アンケートや生活実態調査の「次のステップ」と現状について、あなた自身の言葉で解説できるようになる。
- ✓ あなたの大学で「次のステップ」を展開するために求められる課題について、あなた自身の言葉で示すことができようになる。



# orientation (*GRIP*)

## *Process* 道筋<1505-1615>

- ✓ Think-Pair-Share 【3分程度】
- ✓ orientation 【6分程度】
- ✓ 話題提供: 田中岳, 岡崎成光 【12分×2】~1545
- ✓ コメント: Helka Kekäläinen
- ✓ 対話
- ✓ 省察とまとめ(石口純平)



# *ground rule*



安心して意思の疎通がはかられる  
ような環境づくりを心がけよう



開かれた率直な対話を奨励しよう

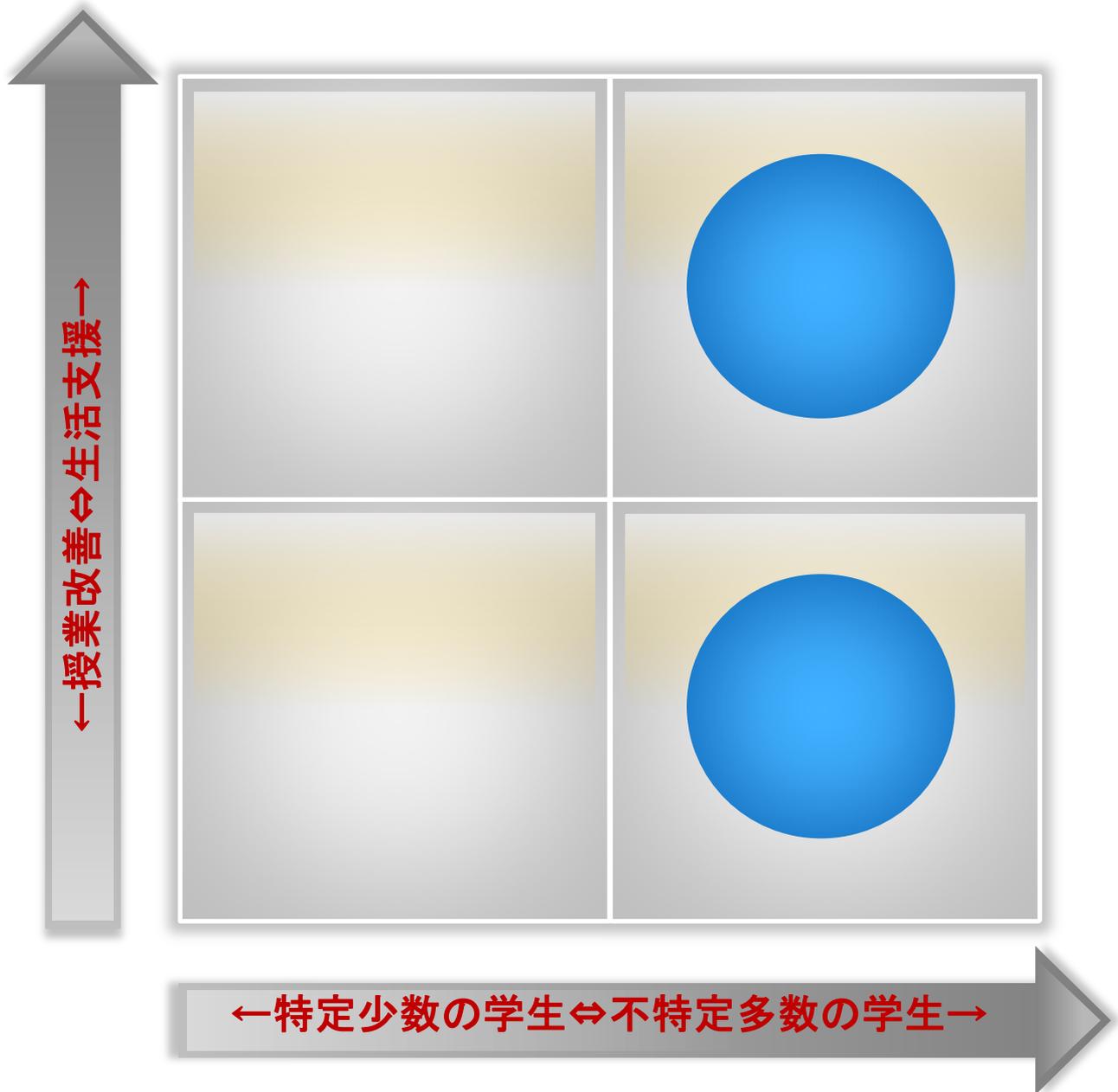


**2Dよりも2Lを推奨しよう:**

防衛<defending>と議論<debating>の兆しに  
気づき、傾聴<listening>と学習<learning>を  
大切にしよう



# 話題提供の前に: 本セッションの位置づけを考えてみる



これからの授業アンケートと生活実態調査を考えるために

田中岳(九州大)



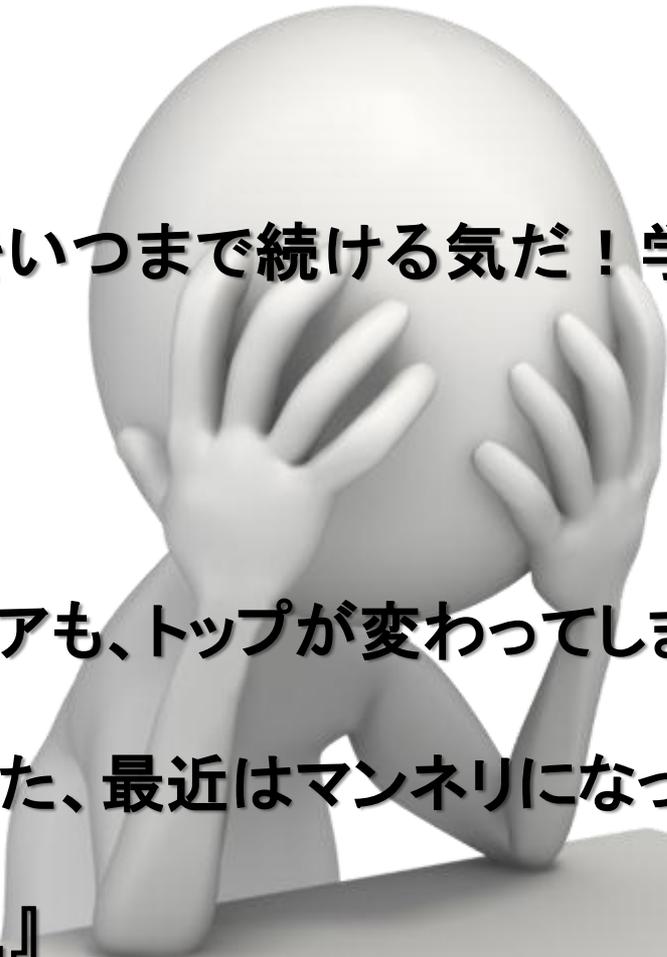
**599大学**

**(約80%:平成21年度)**

全学的な学生による授業評価を実施している。

平成21年度に“学生による授業評価”を実施した大学のうち、授業評価の結果を授業改善に反映するための組織的取組が行われているのは、603大学(約80%)。





『あんな授業評価をいつまで続ける気だ！学生に教員を評価できるはずがない』

『外注にするか...』

『せっかくのアイデアも、トップが変わってしまったから...』

『最初の頃は良かった、最近はマンネリになってしまって...』

『どうしよう回収率...』

『あまりに学生の自由記述がひどい...』

では、これらが解決すれば授業アンケートも安心？！



マネジメントに関わる視点（経緯の理解、ねらい、実施目標、実施組織、実施方法、アンケート項目、実施手順...）に加えて、「授業アンケート」そのものに関わるだろう視点をマインドマップに整理してみました。





こうした授業評価が行なわれるようになったのは、直接的には六〇年代末の学生運動がきっかけとなったとされているが、根底的には、アメリカ社会の消費者保護の思想に連なるものではなかろうか。大学教育というサービスを買う消費者としての学生に対し、彼らが適切な選択をできるように、先輩が授業をどう評価しているかの情報を提供し、消費者の権利を保護するという考えである。つまり料理のよしあしは、料理を食べた者に判断させるべきだという考えである。どんなに著名な学者でも、まず教師としての授業評価をまぬがれることはできない。なぜなら、アメリカでは大学教授の任務は研究能力もさることながら、まず第一に学生の教育にある、と考えられているからである。

# 前提にとらわれていないか

- 学生は「消費者」である
- 教員は「講師」である

*teaching (teacher centered)*

『教員が、何を(どのように)教えたか』  
という考え方のもとでの授業アンケート  
＜満足度の時代＞



11 DO  
YOU  
MEASURE  
UP?

# 前提から考え直せるか

- 学生は「学習者」である
- 教員は「学びの体現者」である

*teaching & learning  
(learner centered)*

『学生は、何が(どれくらい)できるようになった』  
という考え方のもとでの授業アンケート  
＜学習成果の時代＞



# 新たな悩み

- 受講者として講義の効率性を測定する評価から、学習者として授業における学習経験や達成を自己評定する評価へ、全面的にシフトするのか？
- 学生や教員の役割、授業観の変化（方略・方法の多様化）を踏まえたとしても... 授業実践に関する改善情報は、やはり必要



試しに作ってみました！

**一方、生活実態調査は？**

If the Kyudai  
were a village of

100

people



# 制作秘話？

- データを見てもらおう、興味をもってもらおうとしていた...だろうか？
- その後に何を続けることができるか？



# Thank You !

[gakutnk@artsci.kyushu-u.ac.jp](mailto:gakutnk@artsci.kyushu-u.ac.jp)



これからの授業アンケートと生活実態調査を考えるために

岡崎成光(早稲田大)



# 【自己紹介】

4年の学生生活と25年の職員生活



# 【学生の授業評価アンケートと学生生活調査】

早稲田大学では、両方とも全学的な取組

授業評価→各教員の授業改善の資料として活用

学生生活調査→学生の意識調査と生活実態からの支援施策の資料として活用



# 【学生の授業評価アンケートの役割の変化】

悲しきエピソード

カスタマー・サティスファクション(CS)

学生の「主体的な学習」「自主性」が大事

「コレって、何の役に立つの」

教員からのフィードバックという双方向性

学生と教員の双方向のやり取りを社会一般にも  
開示



# 【学生生活調査への学生の関心度の変化】

回答率

2001年度版→9.41%

2012年度版→41.4%

学生の大学に対する期待の高まり



## 【留意点】

大学の活動に期待している層

大学から積極的にアプローチしている層

両者の中間に位置する学生層

学生の大学に対する期待の高まり



【結びに】

「大学を良くしたい」

目的意識→確認と明確化



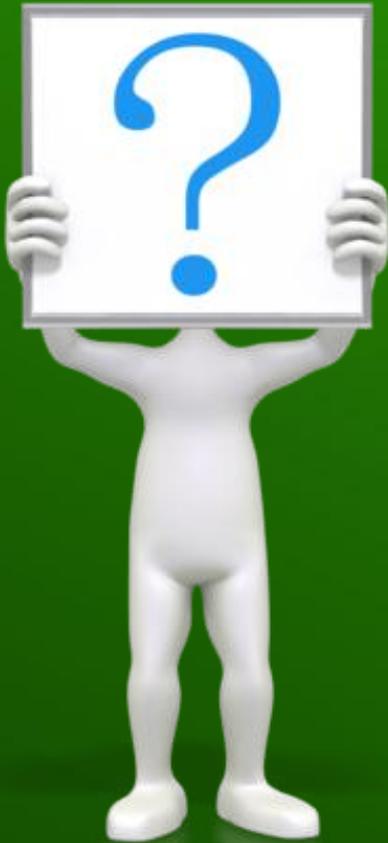
# Thank You !

[okazaki@waseda.jp](mailto:okazaki@waseda.jp)



*Questions? Comments?*

*We are happy to help you!*



**Dialogue**



# Thank You !

セッション2: これからの授業アンケートと生活実態調査  
大学評価・学位授与機構 平成25年度 大学評価フォーラム  
「学生からのまなざしー高等教育質保証と学生の役割ー」  
2013年07月22日(月)15時05分～16時15分  
一橋記念講堂

